

2026年2月9日

第23回「アクサ ブレイブカップ ブラインドサッカー®日本選手権」開催 ～障がい者と健常者が“当たり前に混ざり合う社会”的実現を目指して～

NPO 法人日本ブラインドサッカー協会（東京都新宿区、理事長：金子久子、以下 JBFA）は、2025年10月18日(土)～2026年1月31日(土)の期間において、「第23回 アクサ ブレイブカップ ブラインドサッカー日本選手権」を開催しました。日本を含む世界50の国と地域でサービスを提供する保険会社であるアクサは、2006年にJBFAとの協働を開始し、ブラインドサッカーの普及に向けた認知向上の取組みを始め、今年で20周年です。

「アクサ ブレイブカップ ブラインドサッカー日本選手権」は、ブラインドサッカーのクラブチーム日本一を決める国内最高峰の大会です。2003年にブラインドサッカー初の全国大会「第1回日本視覚障がい者サッカー選手権」が開催されてから、今大会で23回目を迎えました。第1回大会への出場はわずか4チームでしたが、2025年10月18日(土)に開幕した今大会には、全国各地から全21チームが出場し、熱い戦いが繰り広げられました。



©Haruo.Wanibe/JBFA



©Haruo.Wanibe/JBFA

1月31日(土)に開催されたFINALラウンド決勝戦には、品川CC パペレシアル、A-pfeile 広島BFCの2チームが出場。A-pfeile 広島BFCが1-0で勝利をおさめ、初優勝を飾り、同チームの林健太選手が大会MVPを受賞しました。また、3位決定戦ではfree bird mejirodai、コルジャ仙台の対戦の結果、free bird mejirodaiが4-0で勝利し、3位となりました。（※試合結果等の詳細は[こちら](#)をご参照ください。）

そして、今大会では初の試みとして「始声式（しせいしき）」を実施。視覚を完全に遮断してプレーするため、「音」が非常に重要なブラインドサッカーでは、プレー中の静かな観戦がマナーとされています。始声式は、試合開始前に会場が一体となり選手にエール、声を届ける新しい応援のカタチです。始声式を通じてたくさんの応援の声が重なり、混ざり合っていく様子は、選手だけでなく、観客やスタッフにとってもかけがえのない瞬間になりました。また、元・サッカー日本代表の中澤佑二氏がアンバサダーとして登壇し、始声式の他にもプレゼント抽選会や場内実況ラジオ放送やYouTube配信でのゲスト出演を通じて、会場を盛り上げました。

アクサがJBFAとの協働を開始し、ブラインドサッカーの普及に向けた認知向上の取組みを始めてから、20年の節目となる今年、2026年4月15日(水)～25日(土)には、グランフロント大阪にて「IBSA ブラインドサッカーアジア選手権2026*」の開催も決定しています。（※[「IBSA ブラインドサッカーアジア選手権2026」開催決定](#)）

アクサは今後も、ブラインドサッカーのさらなる発展と社会的な認知拡大を推進するとともに、大会など地域のステークホルダーと体験を共有する機会を通じて、従業員が学びや気づきを得られる場を作ることで、インクルージョン&ダイバーシティをさらに推進し、「Care（互いへの配慮）and Dare（挑戦）」を大切にする当社の企業文化を醸成・浸透させていきます。また、多様な人々が当たり前に混ざり合い、ありのままの自分らしく活躍できる社会の実現を目指します。



第23回「アクサ ブレイブカップ ブラインドサッカー日本選手権」概要

- ・ 日時：【予選ラウンド】2025年10月18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日)
【準決勝ラウンド】2026年1月17日(日)、18日(日)
【FINALラウンド】2026年1月31日(土)
- ・ FINALラウンドアンバサダー：元サッカー日本代表 中澤 佑二氏
- ・ 主催：特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会
- ・ メインパートナー：アクサ・ホールディングス・ジャパン株式会社
- ・ 大会特設ウェブサイト：<https://axa-bravecup.b-soccer.jp/>
- ・ FINALラウンドYouTube配信（アーカイブ）：<https://www.youtube.com/live/nrZFE18wPf8>

【決勝戦の様子】



【イベントおよび表彰式の様子】





【FINAL ラウンドアンバサダー 元・サッカー日本代表の中澤佑二氏 コメント】



FINAL ラウンドは、選手一人ひとりの覚悟と情熱がぶつかり合う、本当に素晴らしい舞台でした。ブラインドサッカーは、仲間を信じ、声を頼りにプレーする競技ですが、そのコミュニケーションの密度や、プレーの迫力は想像をはるかに超えるものがあります。今日の試合でも、選手たちが最後の一瞬まで諦めず、仲間を信じて前に進む姿に胸を打たれました。この大会を通じて、多くの方がブラインドサッカーの魅力や選手たちの強さに触れ、応援の輪がさらに広がっていくことを願っています。

【アクサ・ホールディングス・ジャパン代表取締役 社長兼 CEO 安渕 聖司 コメント】



FINAL ラウンドでは、選手の皆さんが出せる力を出し切り、仲間を信じて挑戦し続ける姿に深い感銘を受けました。ブラインドサッカーは、互いを尊重し合い、声を掛け合いながら前へ進む競技であり、その姿勢は私たちが大切にする価値観「Care（互いへの配慮）and Dare（挑戦）」と深く共鳴しています。

アクサは、スポーツを通じて多様性とインクルージョンを社会に浸透させていく取組みを今後も継続し、選手の皆さんの挑戦を支えるとともに、社会全体に前向きな変化を生み出していくことを考えています。今後もブラインドサッカーの魅力を一人でも多くの方に体感していただけることを心から願っています。

■アクサ×ブラインドサッカー これまでの取組み

ブラインドサッカーは、視覚を完全に遮断し、感覚を研ぎ澄ませてプレーする、いわゆる「見えないサッカー」です。フィールドプレーヤーは全員がアイマスクを装着し、スピードやテクニック、そして優れた空間認識能力でボールから出る音の感覚やガイドの声を頼りにプレーします。現在、日本では競技人口が晴眼者を含め約700人以上といわれています。静かな観戦がマナーとされており、静寂の中、ピンと張りつめた空気と緊張感をもって進む試合も魅力の一つです。

アクサは、2006年からJBFAと協働してソーシャルインクルージョンの取組みを継続し、大会などへの従業員ボランティアの派遣のほか、プレー環境の整備や選手の雇用、ブラインドサッカーの普及に向けた認知向上活動、日本代表の支援などに取り組んでいます。

2013年からは日本選手権を「アクサブレイブカップ」としてサポート。さらに、全国にブラインドサッカーチームの裾野を継続的に広げるための「アクサ地域リーダープログラム with ブラサカ」や、「スポ育®」などの出張授業（学校向け体験授業）などの取組みを通じて、JBFAと共にあたりまえに混ざり合う社会の構築を目指しています。



詳細は下記をご参照ください。

<https://prap.gigapod.jp/fb6317aecb12c88d5bd4111a6e07f7d2f6954d656>



アクサ・ホールディングス・ジャパンについて

アクサ・ホールディングス・ジャパンはアクサのメンバーカンパニーとして、2019年に設立された保険持株会社です。傘下にアクサ生命、アクサ損害保険の2社を擁しています。

アクサグループについて

アクサは世界50の国と地域で154,000人の従業員を擁し、9,500万のお客さまにサービスを提供する、保険および資産運用分野の世界的なリーディングカンパニーです。国際会計基準に基づく2024年の売上は1,103億ユーロ、アンダーライニング・アーニングスは80億ユーロ、2024年12月31日時点における運用資産総額は8,790億ユーロにのぼります。アクサはユーロネクスト・パリのコンパートメントAに上場しており、アクサの米国預託株式はOTC QX プラットフォームで取引され、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス(DJSI)やFTSE4GOODなどの国際的な主要SRIインデックスの構成銘柄として採用されています。また、国連環境計画・金融イニシアチブ(UNEP FI)による「持続可能な保険原則」および「責任投資原則」に署名しています。

*アクサグループの数値は2024年1月～12月の業績です。

本件に関するお問い合わせは下記までお願ひいたします：

アクサ・ホールディングス・ジャパン株式会社
コミュニケーション・ブランド & サステナビリティ
電話：03-6737-7200
<https://www.axa-holdings.co.jp/>